

夏休みキッズワールド2021

◆前回の様子から

夏休み期間中の児童の居場所と体験の場づくり、思い出づくりの場としては十分定着。会場準備や片付け、受付や会場への案内、工作の指導補助や児童への声かけを目的とした中学生ボランティアへの応募は、のべ30人近くにのぼり、中学生の中でボランティアに行く先としての「公民館」の認知度が上がっていることがわかる。また、講座中に中学生と小学生が交流できる場にもなっている。

◆解決したい地域課題

- ・コロナ禍で地域行事や学校行事の中止や延期、規模縮小がなされるなか、子どもたちが「今」しかできない体験をする場を作りたい！
- ・小、中学生の今の姿や頑張る姿を地域の人へ届けたい！子どもたちが地域の人に認められながら輝ける場が地域の中に必要である。
- ・公民館の課題として「小学校を卒業したら同時に公民館も卒業」というイメージを持つ親子が多いため、イメージを打破する仕掛けが必要である。また、中学生ボランティアの募集を始めて4年目となる今年度、高校や大学に進学しても公民館とボランティア等がかかわりを持ち続けることができるというPRと実践も必要。

◆活動の様子



ボランティア自ら何ができるか考え、小学生に寄り添う姿が多く見られました。小学生もお兄さん・お姉さんに声をかけてもらえ、とても嬉しそうにしていました。



ロビーで受付。ボランティアが来館者全員に挨拶をします。

★中高生ボランティアが参加したプログラム(10回中7回)★

- ①ペイントでオリジナルうちわを作ろう
- ②万華鏡を作ろう
- ③エコな芳香剤を作ろう
- ④フェルトでケーキ型小物入れを作ろう
- ⑤天ぷら油からキャンドルを作ろう
- ⑥キラキラのスノードームを作ろう
- ⑦キラキラのスノードームを作ろう(追加)

地域の人や市役所で働く人も先生として活躍！

◆参加者（小学生）の声

- ・手つだってくれたり、教えてくれたりしてありがとう！・むずかしかったけど、いっしょにしてくれたのしかったよ！
- ・なつ休みがいいにも、おにいさん、おねえさんといっしょになにかやりたいです。

◆中学生・高校生ボランティアの声

- ・中高生の人たちともお話することができ、充実した時間を過ごすことができました。たくさんの方と接する機会が多く、参加していくうちにコミュニケーション能力も高くなったと実感しています。一番は楽しい！という思いです。
- ・小学生から「ありがとう」と言われ、自分もうれしくなって「ありがとう」と伝えました。

◆講座を終えて

- ・参加者と年齢の近い中学生が優しく対応することで、小学生は大変楽しそうに、安心して活動していることが講座中の様子からうかがえ、「中学生になったらボランティアとして絶対公民館に来る」と言ってくれた小学6年生もいた。毎年このような声が出ていることから、支えられる側から支える側への学びと活動の循環ができつつある。
- ・公民館での中学生の様子を中学校と共有すると、「学校では見せない姿をボランティア活動で見せている」という話をしてもらえた。中学校長からは「あの〇〇さんが公民館ではこんな様子なんだ！想像もできなかった」といった話も聞くことができ、学校・家庭で見せない姿を生徒が公民館で見せていることは、生徒自身も新たな自分の側面を発見したり、自己肯定感を高めることができたのではないかと考える。
- ・高校生2名のボランティア参加もあり、中学生が身近な先輩である高校生に「進路をどうやって決めたか？」「中学3年の夏はどう過ごしていたか？」など相談や質問をする様子も見られた。
- ・本講座4年間の取り組みを通し、幼児・児童期から公民館行事に参加し、中高生になったらボランティアとして支える側として参加するという、成長過程で公民館や地域とつながりや関わりを持てる仕組みを継続的に公民館が作っていくことが必要であると実感した。長いスパンを視野に入れて、継続的に事業を展開していきたい。

「やさしい日本語」活用教室

— 「やさしい日本語」で心の壁をなくそう —

実現したい地域の夢

外国人が住みよい地域は、だれにとっても住みよい場所。コミュニケーションツールとして有効な「やさしい日本語」を使って、相手を理解しようとする気持ちを育み、知らないことから派生する差別・偏見のないまちにする。

解決したい地域課題

技能実習制度を利用して日本で就労する外国人が増えてきた。西大寺公民館のエリアでも、人口の約2%の外国人が生活している。アジアからの外国人が大半を占め、言語も文化も多様化している。片言の日本語で情報が得られず孤立する外国人をつくらないためにも、「やさしい日本語」を活用して文化が融合する地域にしていきたい。

活動の様子



先生の講義より

「やさしい日本語」には、ルールはありますが正解はありません。目の前の相手に伝わるよう、丁寧な日本語を使うよう心がけましょう。方言、敬語は使用をひかえましょう。

↓ 留学生にやさしい日本語で質問をしています



【例題】 高台に避難してください

↑
たか ほんよ
高い場所に にごってください

* 災害などの緊急時に対応するために「やさしい日本語」は誕生しました

参加者の声

- ・外国人だけでなく、いろんな人とのコミュニケーションで多用して慣れていくことが大事。
- ・方言は使わないようにしましょう。
- ・オノマトペを日常でよくつかうので考え直す機会になった。
- ・相手に伝わるように考えながら話して、普段の生活に役立てたい。
- ・高校生同士で伝わる会話でも、他世代の人には伝わらないことがあることがわかった。
- ・幅広い年代の方が集まっていたうれしかった。(留学生)
- ・外国人を理解するために「やさしい日本語」を学習してくれて感動した。(留学生)



一人でも多く理解者を増やしていくために、公民館の分館や町内会の集会所などを利用して毎年講座を開いていきたいと考えています。

中学生・高校生が歩いて感じた地域課題 海と暮らす上南



令和2年7月「上南高齢者大学」で山陽学園地歴部の中高生に「中高生の海ゴミへの挑戦」と題し、事前に上南地域を歩き、どんなゴミが落ちているのか調査をし、活動とともに発表された。

- ・この講座に参加し、感銘を受けた地域の高齢者が、仲間を誘って月に1回、地域の海沿い（児島湾沿い）のゴミ拾いを開始した。
- ・上南中学校3年生が、ふるさとの歴史と課題を知り未来の姿を探るため、地域を歩いてまわるフィールドワークを実施。そこでもゴミ問題が地域課題として多く挙げられた。

ゴミ問題が世代を越え、地域課題として再認識されている！！

地域ワークショップ「中高生が歩いて感じた地域課題 海と暮らす上南」を開催

《ねらい》

- ・発表者の活動について知り理解する。
- ・環境問題について興味を持ち、自分事として捉えることができる。
- ・世代を越えて地域課題について考え、解決のための方法を探る。

上南中学校生徒、山陽学園地歴部の中高生、地元で清掃活動をしている方、専門家である磯部作先生からそれぞれ話を伺った。発表者の他には連合町内会、老人クラブ、中学校PTAなど幅広い年代が参加。

その後、テーマ「地球環境やゴミの現状に対して私たちができることはどんなこと？」についてグループで話し合った。

グループワークで出た主な意見

- ・今日の話が家族、友達に伝える。
- ・買い物のときに気を付ける。
(無駄なものを買わない、プラスチックを使用していないものを選ぶなど)
- ・町内会のクリーン作戦の回数を増やす。
- ・無関心が一番怖い。繰り返し啓蒙活動が必要。
- ・いいと思ったら即行動。周りの人も巻き込む。1人の100歩より100人の1歩。
- ・看板を設置する。
- ・個人や地域で難しいことは行政や企業に要望していくことも必要。

講座後の動きとこれからの展望・・・

- ・令和3年7月に地域住民有志と中学生ボランティアで海沿い周辺のゴミ拾い活動を実施。
- ・中学校と協働し、ゴミ問題についての学びを中学生全体に広げる機会を作るよう調整中。
- ・改めて学習会を計画。改めて世界、地域の現状を知り、自分達にどんなことができるのか、どんなことが必要なのか引き続き考えていく。
- ・出た意見を元に行動、実践。必要に応じて市関係課と連携を図る。



岡山市立一宮公民館

「地域応援人づくり講座」

岡山県立岡山一宮高等学校と地域との交流会

研究成果を地域へ発表しよう

実現したい地域の夢 地域活動に若者の力が活かされる地域

解決したい地域課題 中・高生、大学生と地域のつながりがまだ少ない。支え合い活動や防災・減災活動を軸に、地域と若者をつなげたい。

岡山一宮高等学校 2 年生がグループでテーマを決めて研究を行う「課題探究」に、毎年公民館からも職員が指導のため講師として赴いています。

そこで発表された地域課題に関する分野の研究の成果を、校内だけでなく公民館で地域の方にも向けて発表し、高校の取り組みを知っていただき地域課題の解決の一助としてもらうと共に、高校と地域との交流を図る目的で企画しました。

当日は77の課題探究グループのうち、7グループが発表してくれました。



発表した7つの課題探究テーマ

- ①詐欺問題解決への提案～あなたも詐欺にひっかかる～
- ②手作り段ボールベッド～避難所でも簡単に作れるベッドの制作～
- ③ゴミ箱の外見と分別率の関係について
- ④非常食の備蓄率向上についての研究～ローリングストック法を用いて～
- ⑤一宮高校を歩いてみた～避難所としての安全性の検証～
- ⑥犯罪を減らせる環境とは～平津学区の安全を守る～
- ⑦目指せ！避難所マスター～避難所にいる被災者へのより良いサポート～

⑥犯罪を減らせる環境とは ～平津学区の安全を守る～について

- フィールドマップ(子どもにもよくわかるようなもの)もよく工夫されていて、他の町内会でも作ってほしいとも思いました。よくがんばられました。
- 市や県に聞き取り調査を行うなどしっかりと調べられていると感じた。また調べたことをもとにマップを作成する等、研究成果がとても見えやすかった。



⑦目指せ！避難所マスター ～避難所にいる被災者への より良いサポート～について

- 災害避難所として、高齢者の危険(階段の高さ)を調べられていて分かりやすかった。災害時は元気な人だけでなく様々な人が避難される。相手の立場に立って考えられている点は良いと思った。



岡山市立高松公民館

まつぼっくり～たかまつ手話講座～

◆ねらい(解決したい地域課題)

高松公民館が主催する「まつぼっくり」では、会員が無償ボランティアで地域の高齢者福祉施設へ出向き、作業療法の手伝いや寄り添い、車いすの清掃などを行ってきたが、コロナ禍において施設に出向くことや独居高齢者に対する声掛けが難しい状況に陥った。これまでの活動の中でも耳の遠い方と接する機会は多々あり、接し方に悩むこともあったが、そうでなくても長引くマスク生活の影響でお互いがコミュニケーションを取りにくくなった。高齢化が進む中で、ともすれば、人間関係が希薄になりがちな現状がある。そこで、会員への研修も兼ね、初心者向けの手話講座を公開講座として行うことで、様々な年齢層の方が共に学び合う機会としたい。

◆活動の様子



聴覚障がい者への理解を深めるためのDVDを視聴しました。

手話は「視覚的な言葉」です。まずは簡単なあいさつを学びましょう。「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」、上手く表現できるかな？その他、動物の名前や参加者の名字なども楽しく教えていただきました。



◆効果(参加者の声等)

「コミュニケーションをとる為には、手話とジェスチャー、そして表情・態度が重要だと思いました。」「若いお母さんと子どもさんとの参加は大変よいと思いました。」「かた苦しくなく、楽しい雰囲気よかったです。普段、接する機会があまりないが、こうして知ることが大切だと思う。まず、自己紹介を覚えることができました。」「2時間があっという間に終わりました。もっと勉強を試みたかったです。もっとたくさんの手話を覚えたいと思いました。」「

こうした声を受けて、「たかまつ手話講座」を定期的に好評開催中です。

岡山市立吉備公民館 「庭瀬かいわい案内人」

◆成り立ち◆

「庭瀬かいわい案内人」は平成 19 年の「吉備・陵南観光ボランティア養成講座」受講生により発足したボランティアグループで、平成 20 年 5 月から本格的に活動を始めた会です。『自分たちの地域の良さを自分たちで伝えていく』事を大切に、それぞれが調べたことを持ち寄り、みんなで何度も話し合いながら資料を作成し、活動しています。

吉備・陵南地域の史跡・名所を巡るコースを 5 つ考案して、地図も作りしました。約 2 か月ごとにコース巡りの会を募集・実施しており、地域以外からの参加も増えてきました。

◆活動の様子◆



吉備・陵南学区には
史跡がいっぱい！
(コース地図)



また、地域の小学校の授業の一環として、地域の史跡案内の協力をすることや、地域団体や個人の要望があれば、逐次、案内をしています。



今年はコロナ禍で、初めてオンライン案内にも挑戦しました。

中学生の質問にも
優しく答えます♪



聞き手の顔が見えない
からこそ、丁寧に説明！

コース案内にとどまらず、
毎月定例会を持ち、
勉強を重ねています。



◆効果◆

日常生活の中で何気なく過ごして、見落としてしまいがちな史跡・名所が身近な所にあります。私たちの活動は、古き良き物を残し、次世代につないでいくという役目を果たしています。

親子 DE 防災 2021

◆解決したい地域課題

- ・防災グッズを準備する必要性を感じてはいるが、実際に準備を進めている家庭は多くない。毎年、防災教室で紹介することで、実践化に向けた啓発をする必要を感じている。
- ・親子行事として取り組んで3年目になる。防災について楽しく学ぶメニューを取り入れることで、継続的な行事の工夫を図りたいと考えている。

◆実現させたい地域の夢

- ・「防災・減災」が日々の家庭の食卓の話題にあがる防災・減災意識の高いまち。
- ・いざという時、自分の身を守り、地域の人たちと協力し合いながら助け合う、自らの意思で行動することができる子どもが育つまち。

◆活動の様子 …… 風水害プログラムや防災プログラムツールを活用しながら、防災への興味関心を深め、楽しく活動しながら学ぶことができた。



感染症対策も視野に入れた防災グッズの紹介



水でカップヌードルをつくってみよう



毛布を使った応急担架搬送訓練



倒れた物の下敷きになったケロゾーくんをジャッキアップで救出

◆効果（参加者の声）

- ・家族で防災について考えることがなかったので、とても良い体験でした。実際に担架を作って体験ができたので、災害に合った時に、体が動くと思います。（大人）
- ・防災グッズを使って子どもと意見を交わしながら進めていくのがよかった。（大人）
- ・物の下敷きになった人の助け方、運び方がよく分かって、ためになったと思います。本当の時にどうやって行動するかがよく分かって命を守ることができると思います。いろいろな事が知れてうれしかったです。（小3）

御休タウンミーティング2020

◆はじめに

昨年度に続き、まちづくりや地域の未来の姿について、さまざまな世代の住民が、思いを語り合い、知恵を出し合うことで、「夢の実現に向け、世代を超えて協働する地域」をめざした2年次の取組。

2019の成果や課題を整理し、新たなコンセプトのもとで、2020の実践に取り組んだ。

コンセプト1 子どもたちが自ら創るタウンミーティング

コンセプト2 次世代を担う地域の若者もコメンテーター

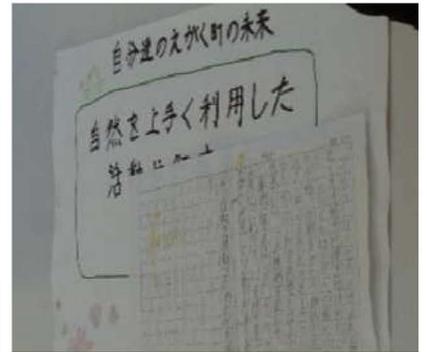
コンセプト3 子どもたちの手で実現でき、達成感を味わうことができる活動

◆取組の内容

コンセプト1 「子どもたちが自ら創るタウンミーティング」について

2019は、初の試みとして実施したために、公民館主導になりがちであったことを反省し、「こんなまちにしたい」という子どもたちなりに抱えている自分たちが住むまちへの思いや願いを大切に扱う活動にしたいと考えた。

そこで、国語科の単元「町の幸福論」の学習計画の中に「タウンミーティング」を位置づけ、子どもの主体的な学びを支援することにした。



コンセプト2 「次世代を担う地域の若者もコメンテーター」について

2019は、町内会長など50代以上のレジェンド世代(5名)がコメンテーターとして参加した。少子高齢化が急速に進み、まちづくりの担い手不足が深刻な地域の課題、子どもや若者の参画・次世代への地域活動継承に向けた取組が求められている公民館の課題、双方の課題解決の一助になればと、2020では、20代前半の若者4名(学区在住の御休小学校卒業生)をコメンテーターに加えた。

コンセプト3 「子どもたちの手で実現でき、達成感を味わうことができる活動」について

2019は、日頃感じている道路・交通施設の整備や街灯の増設などの地域課題について子どもたちが提言し、解決を大人に委ねる形であった。自分たちが掘り起こした課題について、自分たちの手で解決に向けて活動を工夫し、少しでも成果が実感できるようにしたいと思い、2020では、地域の強みである豊かな自然を活かしながら、めざす地域の美化や住みよいまちづくりに貢献できるような流れを考えた。



「いろいろな案の中からランプシェードでまちを飾ることが決まり、計画が順調に進んでいきました。最初のころは『こんなこと絶対出来んし・・・』と思っていたけれど、まちの人たちに私たちの考えをきいてもらい、話をしていくうちに『ひょっとしたら出来るかも?・・・』という気持ちになり、ランプシェードを飾った当日は『本当にできた!』と嬉しい気持ちになりました。あきらめないことや決めつけないことを学びました。これからも、地域のことを考え、住みよいまちにしたいです。」

「御休の自然を生かしたランプシェードを作り並べることで、まちが活気づき、いろんな人が見に来てくれて嬉しかった。地域の人たちの協力で、このような取組ができたことを感謝している。学習を通して、御休のよさをたくさん発見でき、御休というまちに対する見方や価値観が変わったことがよかった。御休のよさをいろんな人に知ってもらおう活動をもっと工夫していきたい。今回体験した考え方や取組が広がっていくと、御休のよさがもっともっと広がっていくと思う。」

◆おわりに

地域の方々が、わがまちに対する子どもたちの思いを肯定的に受け止めてくれ、そこでの助言を参考にしながら、計画したことが実現に至る喜びと達成感を子どもたちが味わったことは、2020の取組の大きな成果であり、これからを担う子どもたちにとって、まちづくりへの原動力になると信じて止まない。さらに、タウンミーティングが様々な世代をつなぐ架け橋となり、顔見知りになった若者とレジェンド世代が、秋に開催予定の地域のイベント「御休の集い」を協働して企画・運営しようというきっかけづくりとなった。また、若者や中学生が小学生も巻き込んで、年末移転予定の新しい公民館の完成を手作りのランプシェードでお祝いしようという計画も進行中であることを、大変心強く感じている。

お花の銀行

ボランティア育成プロジェクト

🌸ねらい🌸

- ・新型コロナウイルスの影響により、主催講座が次々と中止になり公民館で活動することができなかったので、「自宅でもできる公民館ボランティア」、「はなれて つながる こうみかん」というコンセプトで本ボランティアプロジェクトを企画・実行した。
- ・コロナ禍で引きこもりがちとなっている地域の高齢者などを中心に、園芸を通じて公民館活動に参加を促すと同時に地域の緑化推進のきっかけとする。

主なやり方としては

- 🌸 参加者にお花育成セット（花の種や球根、苗+植木鉢1つ+1鉢分の園芸土）を渡す。
セットを使い自宅で育てて、花が咲くころになったらまた公民館へもってきてもらう。
- 🌸 もし花が咲かなくても植木鉢を返していただくだけで大丈夫。
- 🌸 花の種や球根、苗があまったら自宅の庭や地域に植えて楽しんでもらう。



- ・第1回はミニひまわり。職員がポットで苗まで育てています。予備も含めて3本お渡ししました。
- ・第2回はスイセンとクロッカス。球根からの挑戦です。

- ・第3回は花の種4種から選んでもらいました。植木鉢に入らなかった種を地域の公園で育てて、まちの緑化に貢献された参加者もいました。
- ・第4回はヒヤシンス。来春に咲く予定です。



🌸これまでとこれから🌸

- ・公民館の玄関という目立つ場所に花を写真のように並べたところ、大変好評で、回を重ねるたび参加者が増えている。
- ・参加者が来館したときには、自身の成果とやりがいを改めて感じ、一緒に来館した人と喜ばれていた。
- ・このプロジェクトは令和2年度から行っているが、今年度もコロナ禍で中止になる講座が多く、こういったコロナに左右されにくい事業ができてよかったと感じている。
- ・期間を長めに設定しており、1年に2回のペースで開催している。（第1回、第2回は令和2年度。第3回、第4回は今年度開催。）
- ・ボランティア募集を、公民館報に掲載するなどしたところ、園芸に興味のある新たな公民館利用者層・ボランティア層の開拓に繋がった。
- ・ボランティアの年齢層を若年層へと広げたり、作るものを野菜などにすれば、フードバンクに活用することも可能ではないかという評価もあったので、そういったことも今後視野に入れていきたいと考えている。



「はなれて つながる」
ボランティア

岡山市立操南公民館

操南・岡山をもっと知ろう会

はじめに

操南中学校区は、約 330 年前に児島湾を干拓してできた干拓地である。その歴史は、自然災害や塩害や疫病、飲み水の確保などとの闘いであった。人々は苦しい生活の中、沖新田 88 カ所に見られるように、無病息災、五穀豊穡を多くの神仏に願いを掛けた。この講座は今から 10 年前に「操南をもっと知ろう会」という座談会形式で参加者が自分の小さい頃の経験や家族から言い伝えられたこの地域の生活や歴史について語り合い、「ふるさと操南」を再認識しようとスタートしたものである。



H26 古地図をながめ座談会形式で話し合う

ねらい

- 学び合いを通して地域の宝を掘り起こし、再発見することで、地域への愛着や気づきをもたらす。また、操南地域だけでなく地元岡山にも目を向けて歴史や文化・産業など学習機会を広めたい。
- 地域に関するさまざまなテーマでの学びあいを通して、地域の人材発掘につなげる。
- 地域のことを深く学びあう中で、「地域は自分たちみんなのもの」という当事者意識を高めるとともに、学びを若い世代に引き継ぎ、持続可能な地域づくりにつなげていく。

活動の様子

操南中学校 1 年生の総合的な学習の時間「地域学習」で、5 月に「地域のお宝を探そう」という地域フィールドワークを実施し、4~5 人の班に分かれ、公民館が作成した「ぶらり操南八景」の地図を見ながら、学区内を沖田神社、旧三幡港、四番川、白鳥神社など 6 コースに分かれ散策した。それぞれの場所では、当講座の受講生など地元の方が詳しく説明し、地域の歴史や人々の暮らし、苦勞を知ることができた。中学生にとっても地域に住みながら初めて知ることばかりで、熱心に質問したりメモをとったりする姿が見られた。中学生は続いて学習した防災学習の感想の中でも「江戸時代に干拓で先人の苦勞で造られた地域を災害から守りたい」という声が大きく、フィールドワークからの一連の地域学習が役立つようである。



フィールドワークで説明を聞く中学生

創立 150 年目を迎える操南小学校では、6 年生が「SONAN再発見」という総合的な学習の時間の取組を進めており、6 月に「操南小の歴史」というプレゼンを当講座の受講生とともにやり、明治 6 年からどのように現在まで変わってきたのか古い写真などを交えて説明した。子どもたちは卒業生でもある受講生に質問をしながら、熱心に聞いていた。これを参考にしながら学習を進め、後輩たちに「操南小のよさ」を伝えてくれる予定である。



操南小の歴史の説明を聞く小学生

おわりに

地域学の講座は多くの公民館で行われてきている。「操南・岡山をもっと知ろう会」では単に歴史を学ぶだけでなく、この操南地域で受け継がれてきたことを伝えることを目指している。特に今年度学校との連携で「公民館での学び」が「次代を担う世代」へと受け継がれるという貴重な機会となり、子どもたちの「地域は自分たちみんなのもの」という意識を高め、子どもたちにも「自分たちに何ができるか（どうしたいか）」という投げ掛けができ、地域の避難訓練に多くの中学生が参加するなど、持続可能な地域づくりにつなげていくことができた。

公民館をもっと身近に感じてほしい オープン公民館 for Tomiyama

令和3年8月22日（日）に富山公民館では、公民館をもっと身近に感じてもらい、様々な世代の人に利用し活用してもらおうと「オープン公民館 for Tomiyama」を開催しました。開催直前に岡山県が「まん延防止等重点措置」の対象となったため、対象年齢が小学生以下の7つの企画は中止としましたが、コロナ対策を徹底しながら3つの企画を行い、参加した大人はもちろん、中学生たちにも貴重な学びの場となりました。

ジュニア防災

中学生に防災意識や防災力を高めてもらうことを目的に内容を変えながら毎年実施しており、今年で7回目になります。今回は災害時に起こりうる可能性の高い様々な課題について、グループごとに話し合いました。岡山大学被災地支援団体「おかやまバトン」の大学生たちがファシリテートし、視点を変えたり身近な問題に置き換えたりとフォローすることによって、次第に中学生たちの理解も深まりました。



短時間にも関わらず、進行役からの問いかけに対して一人一人が自分の言葉でしっかりと自分の意見を表現することができるようになりました。

わが青春の一曲

まだまだ現役世代といえる50・60歳代を対象に限定し、男女7名の発表者がそれぞれの青春時代の思い出の曲を紹介しました。



全員でその歌を聴いた後、当時の思い出や曲に関わるエピソード等を語り合いました。「私鉄沿線」「君は天然色」「なごり雪」など、懐かしい曲が呼び水となり、各グループでも大いに盛り上がり、知らず知らずのうちに“熱弁”となっていた方も・・・。

これまで公民館活動に関わりがなかった方の飛び入り参加もありました。音楽を通じて、知らない人同士もつながることができた楽しいひとときとなりました。

人生を変えるワークショップ

NPO法人「だっぴ」の協力のもと、富山中学校の生徒17名と大人のファシリテーター8名（「とみやま未来塾」塾生6名、ノートルダム清心女子大学の社会教育実習生2名）が、各グループに分かれ様々なテーマに対する自分の考えをフリップに書いて自由に話し合いました。

年齢や性別とは関係なく、相手の意見を受け止め、お互いを認め合うこととフラットな学びの場



から得られる違いや共感から、自分のことをみつめ、将来について考えるきっかけとなることを目的としました。



中学生の参加者からは「自分の考えに共感してもらえて嬉しかった」「他の人の意見を聞くことで色々とヒントになった」「色々な人に出逢えてよかった」「これからの人生が待ち遠しい」「失敗したら、また前に向かってチャレンジすればよいことを知った」などの感想が寄せられました。

岡山市立高島公民館

ネットワークを作りたい！

つながる子育てについて、考えてみませんか？

◆実現したいこと

子育て支援者、支援団体同士が、地域の子育て中の親子を取り巻く現状や課題について学び合い、情報交換をすることで、“岡山市の子育て環境を良くしたい”という思いを共有しネットワークづくりを支援。今後は、必要な人に届く子育てMAP作りなど、新たな動きにつなげていきたい！

◆取組内容

- ・対象は、子育て支援の拠点を作りたい人、親子の居場所づくりをしている人、子育て広場に関わっている人、または興味を持った方。
- ・初回は緊急事態宣言中、オンラインで開催。ゲストは、NPO 法人岡山市子どもセンター。子どもたちが豊かな子ども時代を過ごすことができる環境づくりを、多くのボランティアと共にすすめてこられたこととお話いただいた。それを受けて、それぞれの活動について情報交換し、活動場所は皆それぞれちがっても子育てに対する思いには共通点があり、ゆるやかに連携することの良さを認識した。



◆参加者の声

- ・長く活動をされている団体さんのこれまでの歴史のお話や、新しい団体さんだからこそ見える視点のお話が伺えて、とても刺激になった。
- ・つながっていくことができるととても良かった。
- ・様々な視点で、子育て状況を知り、シェアできることは宝物。
- ・マップづくりを具体的に進めていくようになると、もっと活発に話ができそうで楽しみ。
- ・1人（1団体）ではできないことも、みんなならできる気がしました。



◎このような場をつくることで、子育て支援者同士、悩みや課題を出し合いながら分かち合い、子育て支援の充実へ向けての思いを強くした様子が印象的だった。

京山公民館 アグリプロジェクト

実現したい地域の夢

- ・地域内での小規模な農作物づくり活動の輪を広げていくこと
- ・フードロスや「食」を通じた絆づくりなどの活動との連携等により、持続可能な社会づくりの意識と実践活動が広がっていくこと

解決したい地域課題

京山学区では ESD の考え方?については多くの方に周知されているが、持続可能な地域社会に向けた実践活動はあまりされていない。そのため地域単位での身近な野菜づくり等を通じて持続可能な社会づくりの活動の広がりや、コロナ禍の中で孤立しがちな人たちの生きがいづくりや新たなつながりづくりにも貢献してい



みんなでラデッシュやニンジンを植えました。

2021.8.7 『カンタン!野菜作り講座』

大学生ボランティアの学生さんなどと一緒に考えました。



2021.8.26 『フードマイレージ買い物ゲーム』



公民館のミニ菜園に玉ねぎを植えました。

2021.10.23 『カンタン!野菜作り講座』



つまみんな食堂と共催して収穫した野菜を使って料理をし学生さんから野菜のお話を聞きました。

2021.11.28 『野菜づくり交流会』

◆効果(参加者の声)

- ・野菜づくりを広めて、地域の課題を解決していきたい。
- ・益虫、害虫のこと、新しいことを学びました。
- ・講師の方と、学生さんのコンビネーションが良かったと思います。

岡山市立御南西公民館

大切な人・会いたい人に手作りハガキを送ろう

【ねらい】

- ・新型コロナウイルスの影響で外出自粛が続き寂しい思いをしている人が多い中、季節感のある手づくりはがきを最近会えていない友人、遠方にいる家族など大切な人に送ることで少しでも心がつながるきっかけにする。
- ・家庭にある使用済みの包装紙などを利用して作品にすることでリサイクルやリメイクを取り入れることができるようにする。

【内容】

「会えない今だからこそ、季節感のあるハガキを大切な人に送ることで少しでも元気を取り戻すきっかけにしてもらいたい」という地域住民の提案を受け昨年度から実施している。

毎月自作のカレンダーを公民館に提供してくださっている方を講師に招き、家庭にある使用済みの包装紙などを使って季節感のある手づくりはがき（今回は暑中見舞い）を作成した。



送る相手のことを考え、
心をこめて作りました。

素敵なハガキが
できました。



【参加者の声】

- 皆様のアイデアに関心いたしました。久しぶりの工作、その間の会話、楽しく参加させていただき、ありがとうございました。
- ハガキを送りたい相手を思い浮かべ、その人のイメージに合わせて折り紙の柄や形を選びました。一生懸命考えている時に先生や他の参加者の話し声がとても心地よかったです。
- 身近なもので生活が彩られ、心が満たされるんだなと感じました。

地域住民の健康増進と地域の歴史や地理を知って郷土愛を育もう!

第4回ええとこ発見!ウォーキング大会

平成28年度 健康市民おかやま21で作成した「ええとこ発見図」を利用して旭東地域のよいところを発見し、健康づくりの意識の高揚と継続的な運動の定着を図るために開催した「第4回ええとこ発見!ウォーキング大会」。

旭東地域の桜の絶景を訪ねて、約1時間のウォーキングコースを56人で歩きました。



元気ハツラツ!
マスクの奥の笑顔が素敵な
みなさんです。



桜満開のもと
晴れやかな気持ち
でウォーキング

令和元年度のウォーキング大会は新型コロナウイルス感染拡大により中止。今年度は感染予防対策の為に話し合いを重ね開催に至りました。

2度目の桜を鑑賞してのコースでは、新たにコース上の史跡(お地藏様や神社、お稲荷様)も確認しながら楽しく巡ることができました。

<効果>

令和3年度は、平井学区を歩くコースを計画している。地域の方が実行委員となり、話し合いを重ねることで、平井学区、旭東学区のつながりもできる催しにもなっている。歩くことで「健康」「地域再発見」「人と人のつながり」と一石三鳥の事業となった。

<参加者の声>

- ・桜のいい時に普段歩かない道を歩いて気持ちの良い1日でした。
- ・桜がとてもきれいでよかった。また参加したい。
- ・2度目の参加。コロナ対策もできていて安心して参加できました。
- ・また、パートナーとも歩いてみたいです。

主催 ええとこ発見ウォーキング大会実行委員会

第4回 ええとこ発見!ウォーキング大会

桜を楽しむ

日時 令和3年3月27日(土) 10時~11時

＜歩くコース＞ 「ええとこ発見図」の旭東学区のコース(約1時間)
★旭東学区の桜の名所をめぐるコースです★

■スケジュール
9:30~受付
10:00 開会・準備体操
10:15 プラザ旭東を出発!
11:30 プラザ旭東到着・整理体操
11:50 閉会(予定)

★集合場所★ 福祉交流プラザ旭東
★定員★ 50人
★対象★ 小学生~大人まで ※申し込み枚数は定員まで
★料★ 50円(保険代) ※申し込み枚数は定員まで
★備★ 水筒(飲み物)、タオル、マスク など
※旭東学区の桜の名所をめぐります

岡山市立御津公民館



学校と連携し、若者と共に地域の魅力を発信 「御津郷土資料館」の展示物の音声ガイドを作ろう!!



朝日塾中等教育学校や御津文化協会などと連携し、御津郷土資料館の展示物に「QRコード」で読み込む音声ガイドを作成し、地域の歴史や文化を幅広くPRする。
生徒たち自身もこの活動を通して、御津の歴史や文化への興味関心を高め、御津の魅力を発信できる若者を育成する。

①御津の歴史を知ろう



地域の人や文化財課の職員さんから展示物の説明を受け、アドバイスをもらいました!

②音声ガイドのシナリオを作ろう



③ナレーションのやり方を学び、音声を録音する



分かりやすい表現、声の明瞭さ、正確な発音、スピードなどを公民館クラブ講師から学びました

④地域の人に発表しよう(使い方の説明含む)



音声ガイドは、御津地域の遺構から出土した土器など合計7か所にQRコードをつけたステッカーを設置し、スマートフォンなどの端末で読み込み説明を聞いてもらうようにした。一部、中国語や英語のガイドも作成した。

そしてケーブルテレビ Oni ビジョンにも協力してもらい、貸出用のスマートフォン端末を資料館に準備した。しかし、体験期間中すぐに緊急事態宣言が発令し施設が休館になったため、残念ながら利用者は少なかった。

この取り組みを通して

①地域の方は若者に歴史や文化を伝える機会を得た、②生徒は自分の言葉で語るためホンキで学び、その結果を発表することができた、③この取り組みが新聞にも取り上げられ、郷土資料館や御津地域のPRになった。

今後について...

高齢化が進むこの地域で、若者を地域活動に巻き込み共に新たな文化や歴史の継承のやり方を探っていきたい。成功することはばかりではないが、新たな取り組みにチャレンジし、地域が元気になる活動へと発展させたい。

岡山市立 万富公民館

千種小学校3年生 オンライン授業

～Google meetによる公民館施設見学～

◆実現したい地域の夢

オンラインで もっと広げる 地域の輪

◆解決したい地域課題

コロナ禍の終息が見えない中、これまでの地域住民同士の交流が途切れたり、住民の学習機会が減少したりするおそれがある。公民館が積極的に ICT を活用した学習機会を提供し、ICT を広く地域に定着させていくことで、人と人が実際に会わなくても、これまで以上に地域に交流が広がりつながりが生まれるようにしたい。また、小学生に公民館や公民館活動を知ってもらう機会とし、公民館講座への参加や、将来的な参画につなげたい。

◆活動の様子

7月1日（木）、コロナ禍の中、社会科見学に行けない、千種小学校の3年生に対し、Google meet を利用し、公民館の施設案内等を行いました。

みなさ～ん、万富公民館で～す。

何をしているのかな？ 講座室をちょっとのぞいてみた！

Q「公民館で活動して良かったこと」を教えてください。

A「公民館は、色々な情報がある、みんなにも会えてつながれること」と答えていただきました。

Q「どうして、公民館で活動しようと思ったのか」を教えてください。

A「健康と趣味の時間が持てると思ったから」と答えてくださいました。

瀬戸公民館と協力して実施しました。

万富ピンポン（木曜）の皆さん

万富フラワーズ（3B体操）の皆さん

施設見学が終わった後は、「公民館クイズ」などを行い、公民館がどんな活動をするところなのか等を説明しました。

◆効果（参加者の声等）

オンライン会議が市民により身近に感じてもらえるように、主催講座等に積極的に活用し、地域に広めていくためのきっかけになりました。

また、若者の地域参画を考える中で、参画が期待できる高校生や大学生のみにアプローチするのではなく、小学生や中学生には公民館や公民館の活動を知ってもらう機会を提供し、公民館講座への参加や、将来的な参画に繋げたいと考えています。その意味で、今回の活動で公民館や公民館の活動を説明する中で、公民館はおじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん世代だけが活動する場所ではなく、小学生の自分たちでも活動することのできる場所であることなど、を知ってもらう機会となったのではないかと思います。

実施2日後に、オンライン授業に参加した、児童が父親と公民館を訪問していただき、「先日のオンライン授業がとても楽しかった。公民館に興味を持った。」などと嬉しいお言葉をいただきました。これを機に、沢山の子ども達が公民館活動へ参加してくれればと思います。

茶屋町公民館

鬼面づくり講座

◆実現したい地域の夢

地域の伝統の鬼面づくりを通じて、吉備地域の鬼に関連した、吉備津神社、吉備津彦神社、鬼ノ城などの歴史や、「鬼祭り」などの地域の文化を知り、郷土に誇りをもつことができる。

◆解決したい地域課題

新興住宅地として人口増加が続いている。新しい住民の方が増えてきたところに、新型コロナ禍で伝統行事の中止が続き、地域のつながりが薄れていってしまうという懸念がある。

◆活動の様子



粘土で土台を作り、そこに和紙をのりで貼って粘土は外していく。髪はシュロの木の皮。「鬼祭り」という11月の茶屋町のお祭りにかぶって、仮装するための伝統的なお面である。



・目玉は、炭火をおこして焼いた太い火箸で、慎重にゆっくり開けていく。画竜点睛である。



迫力ある鬼面が完成し、「鬼祭り」までの1週間だけ公民館に展示して地域の方に披露した。定型はあるが、ある程度作る方の個性が作品に出ている。完成品は祭りでかぶるために軽く出来ている。

◆効果（参加者の声・見学者の声）

・（参加者）今まで体験したことのないことを体験することができたのでよかったです。自分で作った面をかぶるのが楽しみです。

・（見学者）すごい迫力ですね。どうやって作るのですか。講座に参加してみたいです。こういった伝統が若い人に受け継がれていくのがいいですね。

※倉敷美観地区にある、倉敷考古館企画展の「吉備の鬼語り」令和3年10月6日(水)～令和4年2月27日(日)につながっていき、地域の鬼をめぐる文化を発信できました。

倉敷公民館 トーンチャイム講座

◆実現したい地域の夢

暮らしの中に文化芸術に触れる機会が多様にある地域。

◆解決したい地域課題

文化のまち倉敷において、音楽を聴くことはあっても実際に演奏したり発表したりすることは少ない。そこで、楽器の演奏経験のない人でも始められるトーンチャイムをとおして仲間と音楽を奏でる楽しさを知ってもらい、文化芸術活動への興味を広げてもらいたい。

◆活動の様子



手に持って振ることで、誰でも簡単に音を出すことができます。



↑ 担当する音に色鉛筆で印をつけています。



↑ トーンチャイムの優しい音色が心に穏やかな安らぎを与えてくれます。

← はじめは1~2音から、慣れてきたら一人で3~4音担当します。



↑ 低いソから高いソまでの2オクターブ25音。軽量なので(一番重いもので287g)、幼児から中高年の方々まで、幅広い世代に楽しんで演奏していただくことができます。

◆効果(参加者の声等)

- ・トーンチャイムの演奏はチームワークが大切です。自分が担当する音をタイミングよく鳴らすためには、指揮者や楽譜を見る、他の人の音をよく聞く、そしてよい響きのために腕の使い方にも気をつけるなど、頭も体もフル回転! 集中力と反射神経が鍛えられそうです。
- ・やわらかい音色に毎回癒されています。
- ・振る角度やスピード、音の止め方などの演奏技術も磨いていきたいです



【くらしき市民講座】

くらしき市民講座は、市の各部局や公的機関が実施する行政課題や地域課題の解決に向けた啓発事業等と公民館が連携して市民から見てわかりやすい形で講座を提供することを目的に開催しています。

あまり食材使い切り！美味しいフードロス対策

ねらい

食材を使い切ることは大きな意味を持つ。地球に優しく、楽しく、美味しく、新しい食のスタイルを提案！各家庭からフードロスをなくす行動に繋がるきっかけをつくる。連携する倉敷市一般廃棄物対策課、水島こども食堂ミソラ♪、倉敷古城池高校と共に幅広く活動を啓発する。

五〇%削減



二〇一六 二〇三〇

一人当たりの食品廃棄



福田公民館ならでは！

高校生ボランティア

倉敷市立福田中学校区に位置し第二・第四福田小学校、福田中学校、倉敷古城池高校の小中高がある地域。各学校には日頃から公民館への協力を得ている。本講座でも倉敷古城池高校から高校生ボランティアが参加！地域住民や児童と共にフードロスについて学びながら交流を深めてもらいたい。また、参加者には次の企画に企画してもらい地域の持続可能な活動へつなぐ。

内容

もったいないを減！食材を『たべきる』ことに着目し家庭であまらせがちな食材を参加者が持ち寄りサルベージクッキングを実施。楽しく、美味しくフードロス対策を考える。

STEP.1

STEP.2

STEP.3

STEP.4

NEXT

▶開講式▶自己紹介▶食にまつわるエピソード紹介▶メニュー決定▶あまり食材でサルベージクッキング

▶ふりかえり▶メニュー決定▶あまり食材でサルベージクッキング▶もったいないをいかすには？を考える

▶ふりかえり▶メニュー決定▶あまり食材でサルベージクッキング▶フードロスから豊かさとは何か？を考える

▶ふりかえり▶意見交換▶一人ひとりの今後の取り組み発表▶みんなのできる地域での活動・取り組み▶持続可能な活動へ成長させる次の企画▶まとめ



参加者の声 ▶▶▶ 「鍋でご飯を炊くなど、初めての経験がたくさんできました」「皆さんのアイデアがとても勉強になりました」「できたレシピを周りに伝えたい！と思った」「何ができるか予測不能でワクワクした」「白玉を里芋と片栗粉で作る独特なアイデアに驚いたけど美味しくできて感動しました」「食品ロスに興味をわく体験になった」「皆さんとおしゃべりして想像以上にすごく楽しかった！」「皆で創意工夫しながら何品も作る醍醐味が自信や自己肯定感につながると思いました」「若い人たちとのふれあいも新鮮でよかった」「いい時間を過ごせました！」

NEXT フードロス対策▶▶▶

本講座の体験と講師の子ども食堂の活動からの貴重なお話を聞き参加者から具体的な意見やアイデアが出た。誰でも気軽に立ち寄れる地域の皆のお家のような「居場所」作りが必要。地元スーパーと連携してレスキュー食品を調査する。消費者の買い物に対する意識改革を図る。レスキュー食品を活用したレシピを作り、売り場での活用を提案する。等、フードロスの背景にある課題解決を提案し、次の講座や活動、取り組みを企画していこうということになった。

高校生と考えるフードロス対策▶▶▶

【くらしき市民講座】すてるのなくない？みんなで作って食べよう！！(主催) 実施予定
公民館講座での学びから小学5・6年生を対象にサルベージクッキングの講座を企画。自作の教材を活用した学習の実施。講座で作った人気メニューのレシピを作成し健康づくり課のHPやインスタグラムに掲載予定。調査協力をしてくれた地元スーパーにもレシピの活用を提案するなど引き続き協力しながら啓発をしていく予定。

【地域学校交流授業】少しの意識が世界を変える！！(コーディネート) 実施予定
高校生が自分達で実施したフードロスの調査からクイズなどを交えた教材を作成。小学校で交流授業を実施予定。



私たちの一人ひとりの行動が、未来につながる。

SDGs 未来都市

倉敷市一般廃棄物対策課▶▶▶健康づくり課連携講座

玉野市立中央公民館



80周年記念 玉野市 懐古展



玉野市は昨年市制 80 周年を迎え様々なイベントを開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で殆どのものが中止・延期となった。『市制 80 周年記念玉野市懐古展』は感染リスクの低いイベントとして今年度開催。館内ギャラリーで玉野市となってからの 80 年を中心に写真パネルや貴重な品々等を展示し、館内併設「たまのミュージアム」でも懐古展と連動し現在の玉野の魅力のアピールした。また館外ショッピングモールエリアでも市制施行前の歴史を紹介する特別展を開催し、多くの方に観覧いただいた。

ねらい

現在玉野に住んでいる方、通勤・通学で玉野に来ている方、今は離れた場所にいるけれど故郷が玉野という方、玉野市に思い入れのある様々な方々に向け、昔と今の玉野市の魅力や歴史を知ってもらい、郷土愛を深める機会とする。玉野市は人口減少が続いており進学や就職を機に転出する方が多いため、帰省される方にも観見ていただけるよう会期を夏休み・お盆の時期に設定し、また市制 80 周年を記念して決定したキャッチコピー「たまたまたまのを、たまたまたまのに。」のとおり、再来訪や移住促進にもつなげるものとする。



活動の様子



ギャラリー全体が大きな年表に。



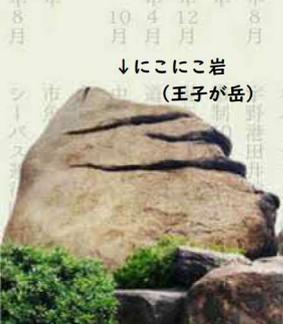
市指定無形民俗文化財の獅子舞に使われる獅子頭や、戦前～戦中の宇野駅の旗など貴重な品も展示しました。



玉野の歴史を短編動画で。



玉野まつりの写真の場所では踊りの音楽を流しました。



↓ここにこ岩 (王子が岳)

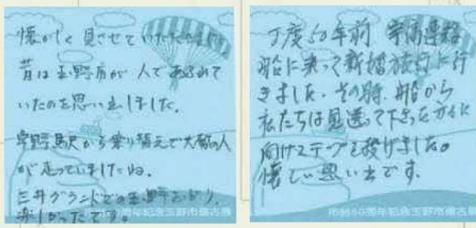


図書館の本や各学校からお借りしたアルバム。思い出話に花が咲きます。



玉野の思い出を語ろう

玉野での思い出を付箋に書き地図に貼っていただき来場者と共有。素敵な思い出が集まりました。



効果

市内の方だけでなく市外の方も多く来場し、「懐かしかった」と仰ってくださるお客様が多く、この展示を機に昔の友人に連絡を取ったというお客様や、新聞で懐古展のことを知り展示品を提供して下さったお客様もいらっしゃいました。また、現在の玉野市は自然豊かな景観のおだやかな港まちですが、昔の連絡船で栄えていた時代を知らない方も多く、地域の歴史を知る機会にもなりました。新型コロナウイルス感染拡大状況が落ち着いたら、お客様自身でもっと玉野のことを知っていける講座や地域密着イベントの開催を予定しています。

現在の宇野駅 / 瀬戸内国際芸術祭 作品 JR 宇野みなと線アートプロジェクト (エステル・ストッカー) ↓



ひだまり（認知症）カフェ



毎年クリスマスの時期には
クリスマス会をしてゲーム
をしたり賞品をもらったり
と皆さんとても楽しそうで
す

2015年6月地区内の老人保健施設と社協大井支部及び公民館が協働で月2回「ひだまり」と銘打った認知症カフェを開催しています。参加費は1回100円です。

コロナ前には35人前後、コロナ禍においても毎回20名前後といつも満員で皆さん楽しみに参加して頂いています。

その他、春・秋に大型バスを借り切って旅行を企画します。（コロナで2年中止）

ひだまりカフェには毎回講師をお迎えしてお話を聴いたり体操をしたりと和やかに運営しています。その後、民生委員さん福祉委員さんのお世話取りで珈琲を頂きながらおしゃべりしています。一人暮らしの方の安否確認もできお年寄りもここで皆さんに会えるのが楽しみですと云ってくださることがとてもうれしいです。

月2回のカフェには、地区内の福祉委員さんが大字毎に5つのグループを作り、会場のセッティング、受付、コーヒー接待、片付け等をして下さっています。

また、毎月第一火曜日には、移動スーパーとくし丸も公民館に来館し参加者は買い物も楽しんでいきます。

川柳講座 アクション2

— 世代を超えて伝えたい古里の文化 —

昨年応募した第4回講座アワードに続いて同講座アクション2として取り組んだ。

※参考…新山公民館ホームページ

— おもい —

川柳に講座生だけでなく、子どもたちにも興味を抱かせ
地区民同士のコミュニティーの和（輪）を広げる。

・特徴は

- 1、子ども目線での参加・記憶に残る「新春川柳大会」を開催し、古里への愛着心を醸成する。
- 2、地元川柳の盛衰を学び、今昔を知る中から世代を越えて伝えたい古里の文化を継承文化として次世代に繋いでいく。

(自主講座紹介の講座アワード欄をご覧ください)



— 活動の様子 —

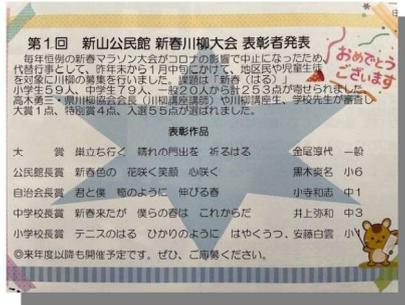
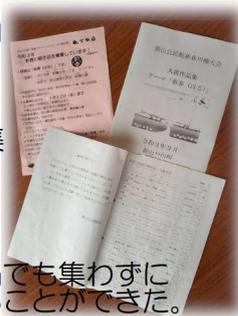
1、第1回 新春川柳大会

- ・年末から1月中旬にかけて、児童生徒、地区民を対象に募集を行った。
- 課題「新春（はる）」児童生徒137人、一般20人から253句が寄せられた。

募集案内

作品集

コロナ禍でも集わずに開催することができた。



表彰式を中学校と小学校で行った。

公民館だよりR3、4月号で表彰者発表

2、川柳今昔

- ・高梁川流域連盟の機関誌（第75号）に掲載されていた、笠岡市における近代川柳の盛衰について「川柳並木会」に集う新山の川柳作家の紹介を目にして、地元の川柳今昔について知ることとなった。



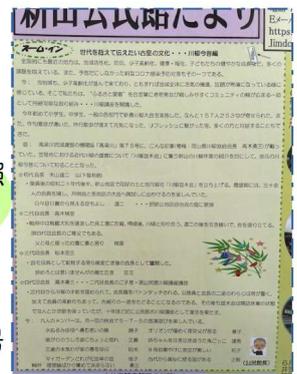
現新山地区自治会の庭に

地元柳社「川柳並木会」
初代会長 木山遠二 歌碑



※詳細…上記ホームページ参照
新山公民館だよりに掲載し、紹介した。

公民館だよりR3、7月号



— 効果 —

- ・小中学生に川柳の面白さや簡単に句が作れる喜びを応募人数から感じる事ができた。また、子どもたちに呼び掛けて実施して良かったと達成感を強く感じている。
- ・記憶に残る活動として「ふるさと愛着」に繋がる一助になればと期待している。
- ・大人から散歩する楽しみができた、ショルダーポーチも買って吟行散歩をしているとの声を聞くことができた。
- ・第2回大会の実施に向けて準備を進めている。

◆ねらい（解決したい地域課題）

人口減少、少子高齢化が進む中で、未来への文化継承が危惧されている。中でも食文化の継承活動は世代を超えた取り組みが求められる。継続的な活動となるよう活動団体を立ち上げ、古くから伝わる地域特有の郷土料理の掘り起こしや地域の子もたちとの郷土料理試食会、大学生を交えたレシピづくり等、北房地域の食と文化を後世に伝える活動を進めたい。こうした活動を継続することで食文化を通じた世代間交流を深め、地域活性化の一翼を担うことをめざす。

★活動の様子

けんびき焼きづくり



◆効果

今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため外部からの多くの参加者は募れなかったが、メンバーを中心に北房の郷土料理「けんびき焼き」づくりを行った。当日の様子とけんびき焼きについて、新聞に掲載していただき、郷土料理の普及とメンバーの士気向上にもつながる郷土料理教室となった。

今後は、「こんにやくづくり」を計画しており、現在奥きびの里のメンバー宅の畑でこんにやくいもを栽培中である。

< 浅口市中央公民館 シニアのためのスマートフォン教室「スタート教室」(15)

解決したい地域課題

高齢者等が、災害などの緊急時にインターネットを通じて避難情報を収集することが困難な状況にある。

実現させたい地域の夢

災害時などに高齢者がスマートフォンを用いて避難情報を収集できるようになること。

教室の内容

教室はスマートフォンを持っていない人を対象に2日連続で行われ、15人の参加者は実際にスマートフォンを操作しながら初歩的な使い方を学んだ。

1日目はスマートフォンのOSの違いや様々なアプリケーションを紹介し、どんなことが出来るのか学んだ。その後、タップやスライドなどの基本的な操作を学んだ。

2日目はグーグルマップのマップの拡大・縮小、音声入力の方法、目的地までの経路検索の仕方を学んだ。また、写真や動画の撮影方法を学び、撮影の練習をした。

参加者は互いに操作の仕方を教え合ったり、楽しくスマートフォンの使い方を学ぶことが出来た。

今後は「レベルアップ教室」を受講してもらい、災害時の情報収集などの方法を学んでもらいたいと考えている。

教室の様子



参加者の声

参加者から「2回目も実施してほしい」、「複数回に講座を分けて実施してほしい」など前向きな意見が多かった。

実践報告

里庄町
中央公民館

里庄虚空蔵大学総合講座「体操教室」

～コロナ禍における高齢者の健康づくり～

【ねらい】（解決したい地域課題）

5月に専門講座が始まり今年度こそと思う中、緊急事態宣言に始まりリバウンド防止等続く中で、10月までの間に14学部ある専門講座のうち5講座が全く活動できず、活動できた部も3回ほどだった。総合学部に関しては、この第6回総合講座まで行うことができず、利用者の健康状態やコミュニケーション活動に関して危惧していた。公民館の活動を通して利用者の健康を保ち、ストレスや孤独感を解消する目的でこの「体操教室」を行った。

元気であるためには姿勢や身なりを整えることも大切だけど、コロナ禍でその気持ちが動かない人が増えています。手がだるいなあと感じられるのは元気な証拠です。まず脳が元気でいろいろなことを感じられるようがんばりましょう。



脳が元気でいられるよう毎日続けられる簡単なトレーニングです。「あなたがたどこさ」を歌いながら「さ」抜きで手拍子して頭を鍛えましょう。「健康寿命」を伸ばすためにも椅子を使ったちょっとした運動も毎日続けましょう。



年をとると血管が古いホースみたいにボロボロになるんだって。10時と15時の「おやつ」じゃなくてちょっと時間があったら水分をとる「間の茶」が大切なんだって。「さする」のは人間にしかできないことで、コミュニケーションも取れて、血管や体も柔らかくなるのでお勧めなんだって。



【効果】 心配していたとおり、コロナ禍で家に閉じこもり外の人とコミュニケーションできずに過ごしていた利用者もいたようです。「ずっと家にいたら体がおかしくなりそうだった。早く元気になりたい」、「コミュニケーションが少なくなっていた。久しぶりに親しい人とも会えて嬉しく楽しい時間でした」という感想がありました。清水美喜先生は、「久しぶりに支度をして外に出るのは、元気を出さなければいけないことだ。」とおっしゃって、元気を出して来てくださった方々に、コロナ禍の日々の生活の中で高齢者が気をつけることと、楽で簡単なのに効き目のある体操を、みなさんが良く知っている歌で教えて下さった。みなさんから「これなら続けられそう」、「頭と体を動かして元気で長生きできそう」と好評でした。久しぶりの運動でしんどいはずなのに、最後のウォーキングでは、みなさんの口から自然と歌が出てきて、「元気になりました。」というお言葉をたくさんいただきました。公民館の役割を果たせたのではと実感しました。

文化講演会「美川のコケ」

◆実現したい地域の夢

自分が住んでいる地域に誇りが持てるようになる。

◆解決したい地域課題

身近な植物を通して自分が住んでいる地域を再発見する。

◆活動の様子

霧を吹きかけてコケが膨らむ様子を観察



野外観察活動の様子



美川のコケ

美川公民館 文化講演会のご案内

日時：11月7日(日) 14:00~15:30

場所：桃源郷はなしの里(矢掛町上高末3749)

講師：服部植物研究所 所外研究員
さぐち ひろし
木口 博史 先生

定員：24名
参加無料(申込み必要)
どなたでも聴講できます。



講演内容について

普段、目に入っているけれど意識していない植物、コケどこにもあるけど、気にしていない植物、コケ意外にヒトとの関わり合いの多い植物、コケこれを機会に、気になるようになる、コケコケに代わって、コケを紹介します。(美川の珍しいコケについても紹介して下さるようです。)

※ 建物内での講座の後、桃源郷はなしの里憩いの館の周辺で野外観察をおこないます。

※ 桃源郷はなしの里では11時から13時半までお食事できます。

主催：美川公民館 教養部 (メールやLINEからも申込みできます)

問合せ先：美川公民館 電話 0866-83-3255 有線 6464

Eメール mikawa@kouminkan.town.yakage.okayama.jp



美川公民館文化講演会「美川のこけ」参加申込書 (公民館のポストに入れてください)

氏名	町内会名	電話番号

◆効果(参加者の声等)

- ・普段よくみかけるけれども、あまり気に留めていない部分からの再発見があった。
- ・美川地区に全国的にも珍しい品種のコケが群生していることを知って誇りが持てた。
- ・コケ・ラン藻類・地衣類の違いを知ることができた。
- ・何歳になっても新しいことを知る喜びを感じていたようでした。

特に、屋内での講演の後の野外観察において、聴講者は全員大人でしたが、まるで子どものように目を輝かせてコケを探し回っていました。まさに生涯学習ですね。

オンラインで国際理解

奈 義 町
奈義町文化センター

本年度の取り組み

コロナ禍の中で多くの人を集める事、域外の講師を招くことが困難なため、オンラインでの研修会を試みました。



国際理解や世界の人権問題を学ぶことを目的に、日本人には誤解や偏見の多いジャンルでの講師との会話を楽しみました。

写真は、インドネシアから広島大学院に留学中のムティアさんを講師にムスリム（イスラム教文化）について歴史や慣習などを学び、最後はおやつ作りにも挑戦しました。

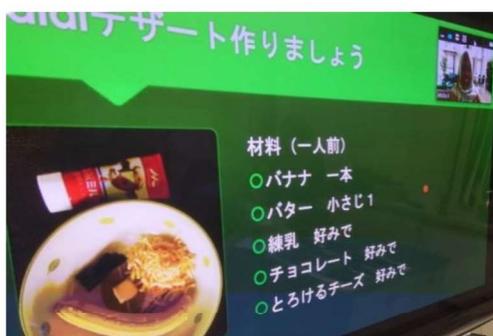
オンラインでの国際理解講座は全2回企画し、その他にもインド出身で現在はオーストラリアに移住されている、ジェニーさんとオンラインでインドのジェンダー（女性問題）やカーストについて学ぶ回も実施しました。

感想

オンラインでの研修は、モニターを見ているだけになるかと思っていましたが、自然に話すことができました。2回目の「ムスリムを知る味わう」の回では会場を調理実習室にし、バナナを使ったインドネシアのおやつ「ピサンチョコラ」づくりに挑戦しました。

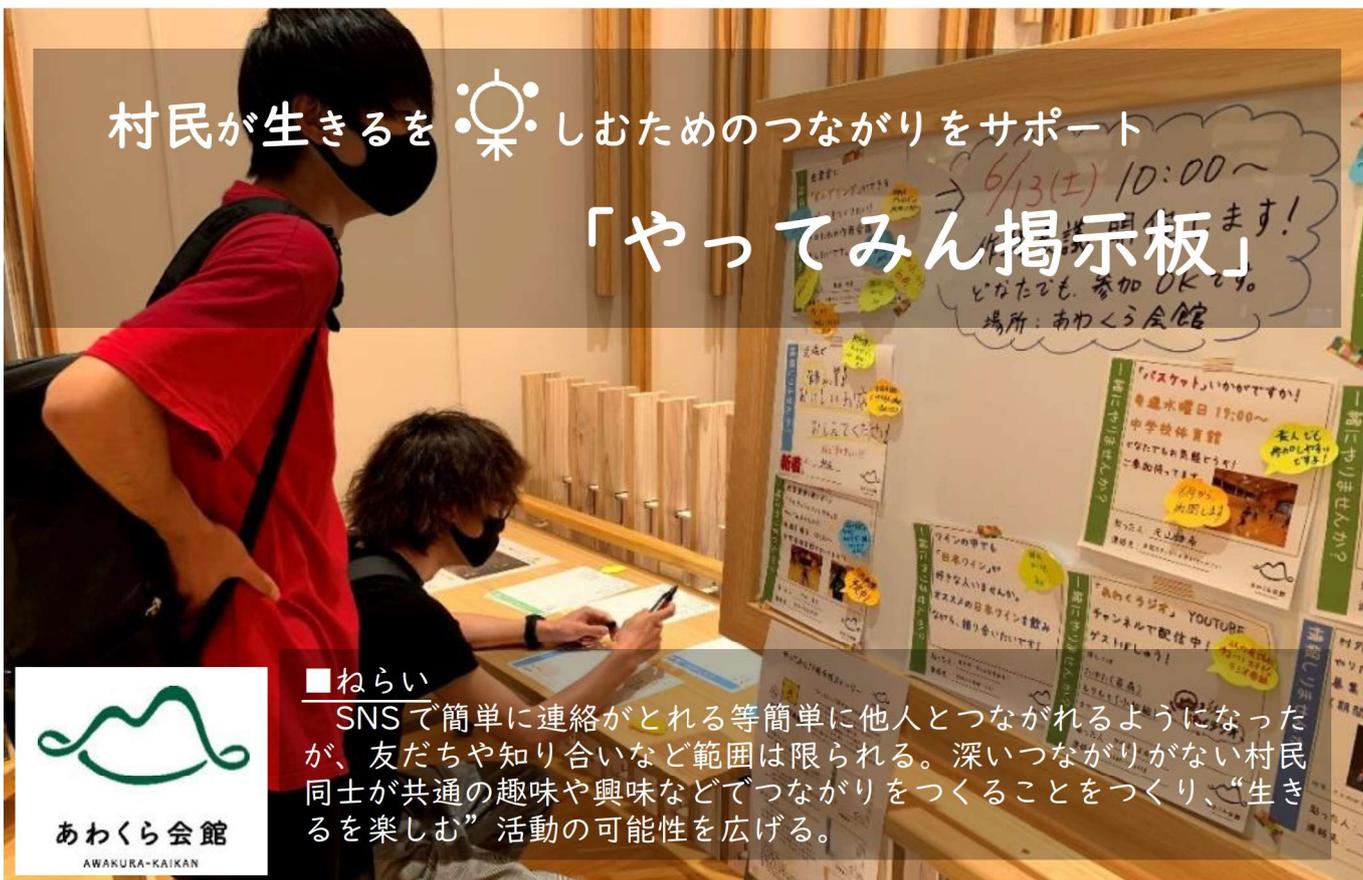
バター風味のチョコバナナは意外にあっさりとして美味しかったです。

海外の方、本物の英語に触れ合う機会も少ないので、参加者は英会話教室に通っておられる方が中心で、人権感覚だけでなく、英会話のスキルアップの機会にもなりました。



村民が生きるを  しむためのつながりをサポート

「やってみん掲示板」



■ねらい

SNSで簡単に連絡がとれる等簡単に他人とつながれるようになったが、友だちや知り合いなど範囲は限られる。深いつながりがない村民同士が共通の趣味や興味などでつながりをつくることをつくり、「生きるを楽しむ”活動の可能性を広げる。



■内 容

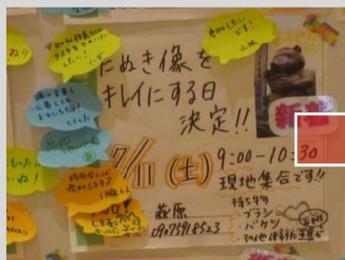
村民や村内就労者は誰もが自由に利用できる。「イベントやります」「一緒にやりませんか?」「情報知りませんか?」をテーマに投稿する。投稿を見た村民は、付箋でコメントし、掲示板内で交流しながら、イベントや活動が実現していく。

■やってみんストーリー

「たぬき像をキレイに！」

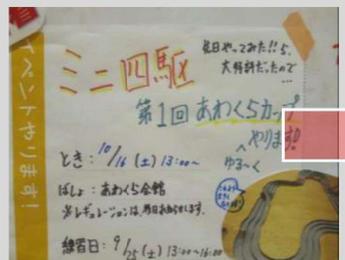
村の入り口にあるタヌキ像をキレイにする仲間を募集。

同じ思いの仲間が集まり、楽しく達成感を共有し、新たなつながりができた。



「ミニ四駆あわくらカップ」

ミニ四駆サークルが大会を開催。3歳～54歳の23名が参加。村外からも参加があり、多世代・地域間でのつながりができた。



■あわくら会館の役割

あわくら会館は人と人をつなぐ役割として、掲示板の投稿をニーズがありそうな方へ届け、コメントがあった際の連絡役を担っている。アナログな掲示板をフェイスブック等デジタル媒体を活用して拡散している。

■村ならではのポイント

- ・多様な趣味や興味を持つIターン者が増えている。(ネタがたくさん)
- ・ずっと住んでいる人とIターン者のつながる機会がまちづくりに不可欠。

MIRAI SHOUTEN GAI



～未来は、ここからはじまる～

ぼくたちのまちは、人口約4,800人。
その中で中学生は約100人。
これからまちはどうなっていくの？
どんどん静かになっていくの？

惜しまれながら閉店していったお店…

この場所がもっと元気になったら、
たくさんのお店が開いていたら、

ぼくたちの仲間は、もっとたくさんになるのかな。

中高生が中心となり地域の人と協力してまちを盛り上げるイベント、
未来商店街。残念だけど、今年も新型コロナウイルス感染症の影響
によりイベントの開催は中止となりました…
そこで！！

次の未来商店街へつながらる取組としてまちの魅力をPRする活動に
挑戦しました！！

ぼくたちの、得意なことを活かしてPRするとしたら…？
ネットかな。

そうだ！TikTokでまちのPR動画をつくってみよう！！

映えスポットの紹介とか！？

カッピーは外せないでしょww

関係してくれた人たちに出演してもらいたいよね！

ドローンを借りれないかな。空から商店街を撮ってみるの。



動画の撮影も編集も子どもたちで行いました！

未来商店街応援メッセージリレーの撮影日には、出店や出演、ボランティアなどで関係した人たちが集まってくれました！個人で動画を撮ってLINEしてくれた人もいました。ほんとうにたくさんの人からメッセージをもらって感激です！



撮影するにあたって、道路許可証や著作権などは大人がサポートしました！



PR 動画のおひろめ会を12月19日(日)文化センターで開催します！
これからもぼくたちのアイディアで、久米南町に元気な未来を届けます！